

る農耕者だけに適用されること。

—諸機関の活動を単純化して経費を少なくしなければならないこと。

最後に、1. 定住のための事業には、多額の費用を要する一方、予算は限られているので、諸業務の簡素化を図り経費の節約に努めるべきである、2. 定住地の無い移動農耕民に重点を置くべきである、3. 水田稲作農業を発展させるには、多収穫のための土壌改良等の具体的な研究を行うと共に、展示農場作物に最適の技術を適用する必要がある、4. 定住活動と共に、焼畑跡地の回復とその地域の土地分類も必要である、などを付言している。

訳文をご校閲下さった東京農工大学川名 明教授に心からお礼を申し上げます。

(付) : 原報告書は Muh. YAMIN MILE & I. G. M. SEMADI : (Population resettlement activity in Gorontalo, North Sulawesi as an effort to prevent the spreading of shifting cultivation) インドネシア森林研究所報告書 No. 381, 1981 で、インドネシア語で書かれている。

新刊紹介

◎ギンネム : 熱帯のための有望な飼料・木本作物 (National Research Council : *Leucaena : Promising Forage and Tree Crop for the Tropics. 2nd Edition*, National Academy Press, Washington, D.C. 93 pp., 1984)

本書の初版がだされたのは1977年、フィリピンのロスバニオスでギンネムについてのはじめての集會がもたれた翌年のことであつた。それから5年、'82年11月にシンガポールで再びギンネムのシンポジウムが開かれたが、そのあと、初版以後の研究成果や新しい計画などを加えて書き改められ、昨秋、装いを新たに刊行された。第2版では、ギンネム栽培の事例を写真中心にまとめている(第2章 p. 11~30)のが特徴的である。またギンネムの3タイプのうち、Hawaiian type は Common type に、Salvador type は Giant type にかえられた。Peru type はそのままである。第8章では *Leucaena* 属の他の9種について若干の記載を行なっている。なお本書は、BOSTID (JH-217D), National Research Council, 2101 Constitution Avenue, Washington, D. C. 20418, USA に要求すれば無料で入手できる。(浅川澄彦)